



おおにしの笑顔

第5号 令和5年6月27日

文責 恩田

- ⑧ もいやりのある正しい子
- ⑧ おきな声であいさつする子
- ⑧ なんと強くかしい子
- ⑧ しっかり体をきたえる子

6月朝会の話「道徳について」

今、「非認知能力」の育成の大切さが強く叫ばれています。「非認知能力」とは、「意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、自制心、コミュニケーション能力」等々の点数で測れない能力全般をさします。これらは、心の中の動きによる力であり、道徳教育で育てたい力とほとんど合致しているものです。

人としてよりよく生きていく、そして人と一緒に気持ち良く生きていくために、道徳性は非常に大切なものです。学校では、道徳教育の充実に取り組んでいますが、今回、改めて子供たちに道徳授業の大切さを伝えるために、朝会で、資料を提示しながら以下のような話をしました。

学校の勉強はみんなとても大切ですが、道徳は「特別の教科」といって、特に大切な教科です。なぜかというと、道徳の時間は、大切な「心」の勉強をしているからです。心というのは、こういう心です。（道徳の時間で扱う内容項目を書いたハートマーク⇒を示しました）**道徳の勉強を一生懸命すると、こういう美しい心をたくさん増やすことができます。**



＜道徳で学ぶ内容(抜粋)＞

昔の道徳の本を紹介します。今から100年近く前、昭和の初め頃の小学1年生はこんな本を使って道徳の勉強をしていました。（下く※参考＞を参照）挿絵や文字は今と違うけど、学ぶ内容は同じです。**大切なことは昔も今も変わらないのです。**

実は道徳の本のおおもとは、もっと昔、明治時代に、なんと群馬県で作られたのです。その本を作るように言い出した人が、楳取素彦（かとりもとひこ）という人です。楳取素彦さんが言い出して作った本が、全国に広まり、道徳の本のもととなりました。このように、群馬県にはすごい人がたくさんいたし、全国に自慢できるすごいものがたくさんあります。みなさんは群馬県民として、よく覚えていてください。そして、自分たちの住んでいる群馬県を大好きになってほしいです。

道徳の勉強の大切なポイントは2つあります。①よく考えます。この人はどんな気持ちだろう、自分ならどう思うだろう、どうしたらいいんだろう、なんて言ったらいいんだろうと、よく考えます。友達の考えもよく聞いて、またよく考えます。②**家の人に道徳で勉強したことを伝えて、家族で話し合う**ことです。今日の話も、「楳取素彦という人が中心になって、群馬県で道徳の本のもとを作ったんだよ」と家の人に話してみてください。

西小のみんなに美しい心をたくさんもった子になってほしい。だから、道徳の勉強も好きになって授業を一生懸命受けてください。

学校の全教育活動を通して道徳教育を行うようにしていますが、子供たちの真の道徳性の育成のためにはご家庭の協力が不可欠です。今後、道徳の時間に学んだことについて、お子さんが家で話をしたり、道徳ノートを見せたりすることがあるかと思えます。その際には是非、ご家族で会話をするようにご協力をお願いいたします。

＜※参考＞ 子供たちに紹介した昭和の初めの頃の本は、右のような挿絵に、「出かける時は、家の人に行き先を言って、行ってきますと挨拶をします。帰ってきたら履き物をそろえて家に上がり、ただいまの挨拶をします。」という旨の文がカタカナで書いてあるものです。



＜昔の本の挿絵＞